令和5年11月1日発行（毎月1日発行）昭和26年12月28日第三種郵便物認可　通巻849号第73巻11号

東京と福岡

ふるさと納税促進特集号

令和5年 11 月

大野城いこいの森

大野城市

高校よせがきノートの店

新橋

有薫酒蔵

ゆうくんさかぐら

高校よせがきノート(新橋の居酒屋ノート)を
はじめたのは1987年7月4日、
2022年に3267冊になりました。
できるだけ長く続けたいと思っています。

新橋有薫ホームページ
http://www.shinbashi-yukun.com

高校よせがきノート　ホームページ
http://koukou-yosegaki.com

松永洋子ブログ　“おかみの日々徒然”
http://blog.shinbashi-yukun.com

東京都港区新橋1-16-4　りそな銀行地階
03－3508－9296
休業日　日曜・祝日・月曜

有明海・玄海の珍しい魚介類を毎日空輸。
九州の産品にこだわって、
数々のメニューでおもてなし、
家庭的雰囲気の中、親子で皆様のお越しを
お待ちしております。

九州郷土料理

赤坂 有薫
AKASAKA YÛKUN

〒100-0014
東京都千代田区永田町 2-14-3 東急プラザ赤坂 3F
電話 03（3592）0393（代）

店主　髙山喜一郎　（昭 42 年　明善高校卒）

http://www.akasakayukun.com
E-mail yu-kun@dmail.plala.or.jp

北京有薫「一心」
五道口店・北京師範大店・経貿店・建外店も宜しく

郷土の先達

（題字　山本卓眞元会長筆）

186 森崎和江

―おんながおんなの言葉で、自分を語ることを求めて―

森崎和江は一九二七（昭和二）年、当時日本の植民地であった朝鮮慶尚北道大邱（現大邱市）で父庫次、母愛子の長女として生まれる。庫次は三潴郡青木村浮島（現久留米市）出身。早稲田大学史学及社会学科を首席で卒業後、ドイツへの留学が決まっていたが、長兄の不祥事により実家が没落。留学を諦めて教師となり、大邱公立高等普通学校で歴史と地理を教えていた。その後、慶州中学校校長、金泉中学校校長を歴任。

一九四三（昭和十八）年四月、母愛子が癌のため三十六歳で死去。翌年二月、森崎は福岡県立女子専門学校（現福岡県立女子大学）を受験するため、一人で日本へ渡る。ほどなく父と妹、弟も帰国。森崎は、学徒動員の飛行機工場で終戦の玉音放送を聞く。

卒業後は、結核により三年ほど療養所生活となり、所内の同人誌に詩を発表。一九五〇（昭和二十五）年、丸山豊主宰の詩誌『母音』の同人となる。一九五二年、結婚し、翌年長女を出産。この年、父庫次が病没。半年後「僕にはふるさとがない。どこにも繋がっていない」と言っていた早稲田大学在籍中の弟健一が自死する。植民地生まれの森崎自身も日本帰国後、同じ思いであった。

1973年4月
遠賀川にて（撮影：林えいだい）

一九五六年、長男誕生。

一九五八（昭和三十三）年『母音』で一緒だった谷川雁から誘われて筑豊の炭鉱町中間に移り、九州・山口のサークル活動をネットワーク化する機関紙『サークル村』創刊の準備を行う。谷川も森崎も離婚し、それぞれの子供を連れての暮らし、隣は同じく創刊メンバーの上野英信の家であった。

同年九月に『サークル村』創刊。九州・山口の数十のサークルの二百余名が参加し、小説、詩、評論、短歌、ルポルタージュ、映画評などさまざまなジャンルが掲載されていた。メンバーから石牟礼道子などを輩出したが一九六一年十月休刊。

森崎は、これとは別に一九五九（昭和三十九）年から六一年まで「女性が一人の人間として自立するため」の交流誌『無名通信』を発行。なぜ無名なのか創刊の辞にこうある。

「わたしたちは女にかぶされている呼び名を返上します。無名にかえりたいのです。なぜならわたしたちはさまざまな名で呼ばれています。母・妻・主婦・婦人・娘・処女…と」。

六一年には、筑豊の炭鉱で働く女性たちの声を聞き取り、その生きざまを記録した『まっくら―女坑夫からの聞き書き―』を理論社から刊行した。これは長年封印されていた女性の坑内労働の記録を、最初に公開したものである。

その当時、エネルギー革命を背景とする中小炭鉱の閉山休山が相次ぎ、大炭鉱でも大規模な合理化が行われ、サークル活動にも影響が出ていた。谷川は文化活動から政治活動へ軸を移し、地元の大正鉱業に対し、反合理化闘争では、「大正行動隊」を組織して戦った。その中で隊員が起こした強姦殺人事件への対応について、谷川と森崎の意見が分かれ、一九六四（昭和三十九）年十二月の大正鉱業の閉山後、谷川は東京へ去り、森崎は中間に残って次々と作品を発表する。

一九六五（昭和四十）年、女性がセクシュアリティを論じた先駆的な著作『第三の性』（三一書房）。一九七〇年、谷川との共感と絶望を、闘争内の性暴力事件を中心に描いた『闘いとエロス』（同社）。一九七三年、ヤマに生き、ヤマを追われた人々の声を、聞き書きと、歴史資料で探り当てた『奈落の神々 炭抗労働精神史』（大和書房）。一九七六年、海外売春婦を描いた『からゆきさん』（朝日新聞社）。その中の『おヨシと日の丸』は、一九六九年、『からゆきさん あるからゆきさんの生涯』として先に発表されている。同じく『からゆきさん』を描き、映画化もされた山崎朋子の『サンダカン八番娼館』には、山崎が森崎を訪ねて取材先などの助言をもらったことが書かれている。

二〇〇四（平成十六）年、朝鮮の風景を描いた詩集『ささ笛ひとつ』（思潮社）で、第十四回丸山豊記念現代詩賞受賞。森崎にとってふるさとは朝鮮であったが、そこは帰れるところではなかった。植民者であった原罪を背負い「女とは何か」「日本とは何か」を探し、問い、語り続けた生涯であった。

二〇二二（令和四）年六月十五日、呼吸不全のため死去。享年九十五歳。十一月、現代思想二〇二三年十一月臨時増刊号『総特集＝森崎和江』が出版された。

参考資料　『『サークル村』と森崎和江』（水溜真由美著・ナカニシヤ出版）、『慶州は母の呼び声』（森崎和江著・洋泉社MC新書）

写真提供　北九州市立文学館

執筆者　福山　祐子（編集委員会担当副会長）

スポットライト No.202

夢に向かって突き進んできて

LE VELVETS　テノール担当

日野　真一郎氏

Hino Shinichiro

PROFILE

1982年　北九州市若松区生まれ
1998年　北九州市立向洋中学校卒業
2001年　九州国際大学付属高等学校卒業
2005年　武蔵野音楽大学卒業
2007年　武蔵野音楽大学院卒業

四人編成のヴォーカルグループLE VELVETS（ル・ヴェルヴェッツ）のテノールを担当。音大で学び、さらにこれまでに培った高い技術でクラシックをはじめ、ロック、ポップス、ジャズ、日本の民謡など、自由自在に歌い魅せる。現在は、ミュージカルの主演を務めるなど、活躍の場は広がっている。2023年、LE VELVETSが15周年を迎え、それを記念し「LE VELVETS CONCERT TOUR 2023」を全国各地にて開催。11月12日(日)は「北九州芸術劇場」中劇場にて。11月22日(水)東京公演・26日(日)大阪公演の二日間は「徹子の部屋」コンサート2023に出演予定

日野真一郎です

LE VELVETS(ル・ヴェルヴェッツ)という、四人編成のヴォーカルグループで、テノールを担当。クラシックをはじめ、ロック、ポップス、ジャズ、日本の民謡など、様々なジャンルの歌をうたっています。二〇二二年九月二十二日、そして二年連続となる、今年の九月二十一日にテレビ朝日「徹子の部屋」に出演させていただきました。

二〇一五年には北九州市観光大使を拝命。二〇二三年七月、県人会会員となりました。

子どもの頃

洞海湾と響灘に囲まれ、かつては日本一の石炭積出港として賑わった港町、若松の出身です。今年で四十一歳となりました。おじいちゃん・おばあちゃん子だったので、テレビゲームのような、流行りの物よりも、山登りや海水浴、タケノコ掘りをしたり、ゴム銃を作ったりと、アナログな遊びをしていました。

家を建てるときに、上棟式でおこなう「餅まき」の光景も浮かびます。地域の人たちが集まって、ワーワーいいながら餅を拾いました。もう亡くなってしまったのですが、父方の祖母と一緒にヨモギ餅を作ったり、つくしを採りに行き、溶き卵にくぐらせ、油で揚げたものを食べたりもしました。いずれも懐かしい思い出です。

習い事

四歳で始めたピアノ。母がいうには、僕が「やりたい」といい始めたのだそうです。だからといって、楽しかったわけではありません。レッスンがあれば友達と遊びに行けず、嫌々通っていました。

そして小学四年生から中学三年生までクラシックバレエも習っていました。思春期には「男なのにタイツを履いて…」と、とても恥ずかしかったです。これまた本当に嫌々でしたけれど、先生に「頑張れ、頑張れ」と励まされることで続けられました。

しかしながら、今ではそれらを「本当にやっていてよかったなあ」と心から思えます。ピアノが弾けるようになったからこそ、現在の仕事に繋がっていますし、小学校時代に足が速くなったのも、背が伸びた（一八一センチ）のも、クラシックバレエのおかげ。成長期に体の柔軟性を高めることができたからです。これらすべてにおいて、両親には感謝しかありませんね。

中学時代

北九州市立向洋中学校に通いました。部活はブラスバンド部に所属し、テナーサックスを担当。三年生では部長を務め、北九州市の大会では金賞を受賞。

中学一年（一九九六年）の四～六月、フジテレビで放送された、ドラマ『ロングバケーション』。主演の木村拓哉さん演じるピアニスト〝瀬名秀俊〟に影響され「ピアノを弾けるとモテるかな？」という単純な思いつきから、その〝ロンバケ〟の挿入曲を弾き、ピアノに本腰を入れ始めました。

そんな僕が、合唱コンクールで伴奏をしていると、音楽理論やピアノを教えている保護者の方が「ピアノをやるんだったら、歌も本格的にやってみた

ら?」と声をかけてくださいました。それがきっかけで、高校一年生から声楽を習い始めるのです。イタリア古典音楽の〝ベルカント唱法〟など、かなり本格的な世界に踏み入っていきました。

その傍ら、よく驚かれるのですが、ビジュアル系バンドのコピーバンドを組んで、黒崎にある〝マーカス〟（ライブハウス）でシャウトしていたんですよ。

高校時代

九州国際大学付属高等学校に進学。スポーツは、特に野球とバドミントンが強いことで有名です。現在は共学の中高一貫校となりましたが、僕が通った当時は、男子部（男子校）時代でした。

入学してみたところ、音楽の授業がない高校だったのです。担任の先生は、僕の進路について親身になり、特別な配慮をしてくださいました。その期待に応えるためにも、徹底的に音楽理論を勉強し、ピアノと歌のレッスンへ通う日々。受験直前になると、本試験さながらの特訓は週四～五日へと増えていきました。

2年連続出演の「徹子の部屋」（テレビ朝日）控室前にて。
2023年9月21日放送

大学時代

武蔵野音大に進みました。それまではビジュアル系バンドやJ-POPの音楽を聴いていたのに、入学するとクラシック一色に。当時千円弱だったと思いますが、デアゴスティーニの『クラシック・コレクション』を毎号買って勉強しました。

一方、関東での学生生活、とにかくお金がかかるんです。勉強以外の時間はアルバイトに費やす日々。生活費をかなり切り詰め「どうやったら節約できるか」と必死で考えた食事をしていました。

大学院から芸能の世界へ

僕らが通った声楽科では「オペラ歌手になる」という目標を掲げていました。しかし皆、そう簡単な話ではないと、だんだんと気づき始めるんです。それからです、学割を使い週三でミュージカルを見に行くことを始めました。そうするうちに、僕の中で「オペラだけでもない、ミュージカルだけでもない。ロック、ジャズ、ポップス、いろいろなジャンルが歌えるエンターテインメントシンガーを目指そう！」という閃きが生まれました。

そのタイミングで大学の先輩から「身長一八〇センチ以上、音大卒の人で、クラシカルクロスオーバーアーティストを探している って！　俺が考えるには真ちゃんしかいないから、オーディション受けてみたら?」との話が。それが〝LE VELVETS〟の本当の始まりだったのです。クラシカルクロスオーバーとは、つまり、僕が目指していたアーティスト像〝そのもの〟でした。

幼稚園での発表会

オーディションに合格。まずは、コーラスワークや体を鍛えたり、英語の発音の練習をしたり、朝から晩まで、まさに合宿状態。

そしてすぐにデビューかと思いきや、雨の日も風の日も、夏の暑さも、冬の寒さも関係なくやった、路上ライブの下積み時代が待っていました。門司港のデッキで歌ったこともあります。投げ銭を集め、マイクが一本ずつ増えていくような、まともな機材もない状態から一歩一歩進んできました。

時は流れ、そんな僕らLE VELVETSは、今年十五周年を迎えます。それを記念し「LE VELVETS CONCERT TOUR 2023」を全国各地にておこないます。十一月十二日（日）は「北九州芸術劇場」中劇場での開催です。

興味のあるものがたくさん

自分の体が楽器なので、運動による健康維持や体づくり、美容や食事にも気を遣っています。例えば、シャンプーはこだわったものを使っていますし、食べ物に関しては、発酵食品がいいと聞くので、納豆やキムチなどを取り、甘酒とヨーグルトに関しては自家製です。

アロマのアドバイザー資格を持っています。噴霧したり、焚いたりして使いますが、詳しく説明し出すとキリがないほどに、香りは強く大きな効果を発揮してくれます。その様に学ぶことが好きで、現在、北九州市小倉北区にある、九州医療スポーツ専門学校の学生でもあります。生涯にわたり、人々の健康を管理できる〝整体セラピスト〟資格の取得を目指し、勉学に励んでいます。

アーティストソロ活動では、イベントやミュージカル出演などもしているんですよ。今の想いは、映画にも出てみたいし、プロデュース業もやってみたい。他には、ファッションやアクセサリーのデザインなど、チャンスがあれば、どんどん、いろいろなことに挑戦していきたいと考えています。

県人会の皆さんへメッセージ

東京に出て初めて、故郷・若松の良さを再確認できました。美しい自然、食べ物は美味しいし、人は本当に優しく温かい。

自分の夢のためだけではなく、応援してくださる皆さんのためにも、僕の歌やパフォーマンスで、より多くの人に福岡の良さを知ってもらえるように、今後も努力し精進していきます。県人会の皆さん、そんな僕のことを、ぜひ応援してください。

インタビュー　小倉　文子
（国際交流委員兼編集委員）

山根 優姫（やまね ゆうき）
（春日市）

シャンソンに出会って

沖縄生まれ、福岡育ち。シャンソン歌手として活動しております、優姫ｙｕｕｋｉ（山根優姫）と申します。大学進学と同時に福岡の地を離れ、二十年以上が経ちました。子どもと一緒に帰省するたび、福岡の明るくておおらかに感じる空気感や人達、美味しい食べ物、コンパクトで綺麗な街や自然に触れると「この土地で育ってよかった。やっぱし福岡はちかっぱよかとこ！」と、改めて故郷の良さを実感し、この度、福岡県人会に入会させていただきました。

福岡中央高等学校を卒業後、横浜市立大学国際文化学部に入学。大学では仏語とフランス文化を専攻しました。大学卒業後、ご縁があり「あなたは声がシャンソンに向いてそうだから、シャンソンを歌ってみたら？うちの店で学んでみる？」と言われたことがきっかけで、ライブハウスで働きながら、シャンソンを学び歌わせていただくようになりました。今思えば、若く無知だったからこそできた選択と行動だったなと思いますが、福岡仕込みの情熱だけはありました（笑）。結婚、出産を機に一時は歌から遠ざかっていましたが、夫が後押ししてくれて、現在は小学５年の息子の子育ての傍ら、定期的にライブハウスやコンサートに出演させていただいております。

歌がうたえること、そして、応援してくれている家族への感謝の気持ちは常に持っていたいなと思っています。

シャンソンとは、フランス語で「歌」という意味です。本来は、敷居の高いものではなく、民衆の歌です。もっと気軽にいろいろな方に興味を持っていただけたら。いつか故郷福岡で、小さな規模でいいから、両親を招いてライブを開催することが私の夢の一つです。

こうして同郷の方々と繋がらせていただくことができ、大変心強く思っています。今後、皆様と交流させていただくことを大変楽しみにしております。

シャンソン歌手・優姫yuuki
https://yuukichanson.wixsite.com/yuuki-chanson

あのひとこのひと No.202

中村 亮介（なかむら りょうすけ）
（大牟田市）

故郷と私とケーキ

戦前戦後の日本を石炭で支えた大牟田の三池炭鉱は、私が物心ついた八十年代後半には既に斜陽であり、九七年三月には閉山。それは奇しくも私の三池高校卒業と同時でした。活気のない故郷を離れ、遠くへ行きたいと考えていた私は、沖縄、上海、そして東京と移り住み、多くの人に出会い、たくさんの経験を重ねました。振り返れば二十歳ころから三十歳台の学生、就職、結婚、育児と目まぐるしく変化する毎日を懸命に駆けていた私にとって、大牟田は実家があるという以上でも以下でもない場所となっていました。

そんな私とは反対に、田中という幼馴染（おさなじみ）は大牟田に残り、福祉や地域振興など、多くのビジネスを手掛け続けました。彼はコロナを契機に、地元大牟田にあるオーム乳業の最高級生クリームを使ったケーキ「プレメルケーキ」を開発しネット限定販売。これがＳＮＳで大人気となり「マツコの知らない世界」「Ｎスタ」等でも取り上げられ、多くの企業から問合せが入るようになりました。ただ、流行感度の高い企業の多くは東京所在。そこで田中は私に、東京での営業を手伝って欲しいと声を掛けてきたのでした。

四十歳を過ぎて何とはなしに、人生折り返したという感覚が芽生えていた頃でした。東京在住の身ながらも、故郷大牟田に何か貢献できないかを、漠然と考えていた私にとって彼の誘いは絶好の機会でした。

そして今、私は本業の傍ら「プレメルケーキ」事業の手助けをする日々を送っています。

「ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中にそを聴きにゆく（啄木）」

スマホで常に世界とつながる時代となりましたが、誰にとっても故郷は時代を越えた普遍の価値を持つのではないでしょうか。遠く離れて暮らしている身だからこそ、故郷との繋がりを大切にしていきたいと考えています。

それから、ぜひ一度プレメルケーキをご賞味いただけたら幸いです。ぎゃん美味（おい）しかですよ！

会社員

プレメルケーキ
https://premel.jp/pages/premelcake

県政だより

日田彦山線「BRTひこぼしライン」開業！

平成29年７月九州北部豪雨により被災したJR日田彦山線添田駅～夜明・日田駅間が、８月28日、「BRTひこぼしライン」として開業した。BRT（Bus Rapid Transit）は、鉄道の定時性や速達性と、バスの柔軟性を併せ持つ新しい交通システムだ。

ひこぼしラインのBRTは、EVとディーゼル車両の６台。おりひめの羽衣をイメージしたデザインで、沿線地域の魅力を表す６色で表現した。彦山駅から宝珠山駅間はこれまでの線路敷地を活用した「専用道」を走行する。開業にあたり、JR九州は地域住民のニーズ調査をもとに駅や便数を増やして利便性を高めた。

開業記念としてスマートフォンアプリでBRT全線１日フリーチケットと地域限定特典がセットのお得なデジタル乗車券を販売するなど、県・市町村・交通事業者など関係団体が一体となって、BRTの利用促進と沿線地域の振興を図る。

また、環境にやさしい水素燃料電池バスの実証運転も予定している。

沿線地域は美しい自然や美味しい食べ物、伝統工芸品等の魅力にあふれている。BRTひこぼしラインは、生活に密着した地域の足としてだけでなく、国内外から多くの観光客を運ぶ足としても活躍が期待される。

日田彦山線BRT ひこぼしライン HIKOBOSHI LINE

≪問い合わせ先≫
福岡県企画・地域振興部交通政策課
TEL：092-643-3693

以下９ページまでの記事は西日本新聞社のご厚意により許可を得て転載しています。10月６日までの記事から抜粋。

福岡の企業５社、中国シルバー市場へPR 南京の博覧会

中国江蘇省南京市で９月21～23日に開催された「江蘇国際養老服務業博覧会」に、健康靴が人気の靴メーカー「アサヒシューズ」（久留米市）や、医療介護用ベッドを製造・販売するプラッツ（大野城市）など福岡県内の企業５社が出展し、高齢者向けの製品やサービスをPRした。高齢化が進む中国ではシルバー産業の需要拡大が見込まれており、福岡県は県内企業の中国進出や販路拡大を支援している。

博覧会は江蘇省政府などが主催し、400社近くが参加。このうち日本貿易振興機構（ジェトロ）の「ジャパン・パビリオン」には32社・団体が出展した。

福岡県からはほかに、骨盤ベルトを販売する企業、腸内環境などに特化した郵送検査サービスを提供する企業などが出展し、現地法人や現地代理店の担当者らが来場者に説明していた。

生成AIを業務活用へ福岡県がガイドライン 職員向け、市町村にも提供

福岡県は、利用者の求めに応じて文章や画像をつくる生成AI（人工知能）を業務に利活用するため、その注意点などを盛り込んだ職員向けのガイドラインを策定した。生成AIを使い、職員の働き方改革や行政サービスの向上、新規事業の企画立案につなげていく。県内の市町村にもガイドラインを提供するという。

使用する生成AIは、米IT大手のマイクロソフトが提供する「Bingチャット」。引用元の情報源が記載されるため信頼性を確認できる上に、無償で即時利用できることから、適当と判断した。実際に利用する際は、内部の情報対策基準に基づき、庁内で事前に協議する。

福岡県立高の図書館「常時開けられなくなる」 兼務可とされた学校司書の懸念

福岡県教育委員会が、県立高校の図書館に配置している「学校司書」について、本年度から学校事務の仕事と兼務できるとの通知を出し、現場に動揺が広がっている。既に約４割の高校で兼務となり、西日本新聞には複数の司書から「本来の業務がおろそかになる」と心配の声が寄せられた。全日本教職員組合（全教）も「全国的に兼務や非正規の司書が増加し、図書館を毎日開館できない状況が増えている」と問題視。今年の通常国会に、すべての学校図書館に専任の司書を配置するよう請願した。

九州とベトナムのビジネス交流拡大へセミナー 企業や行政関係者が交流

ベトナムと九州のビジネス拡大を図る「第2回全世界ベトナム経済セミナー」（ベトナム外務省、在福岡ベトナム総領事館主催）が10月６日、福岡市博多区の福岡国際会議場であった。ベトナムの企業がブースを出展するなどし、企業や行政の関係者が交流を深めた。

今年が日本とベトナムの国交樹立50周年や、ハノイ市と福岡県の友好提携15周年の節目に当たるのを記念して開催。ブースではベトナムの工業団地やソフトウエア開発大手のサービスなどを紹介。九州の自治体関係者による地場産業の紹介もあった。

ドカンと豪快に激突 苅田山笠「突き当て」に歓声

苅田山笠（福岡県指定無形民俗文化財）のクライマックス「突き当て」が10月１日、苅田町富久町の町役場前であった。鉦（かね）や太鼓が鳴り響く中、武者人形や造花、紙張りの岩などで飾り付けた「岩山」が豪快にぶつかり合った。

突き当ては、その荒々しさから「けんか山笠」とも呼ばれる。男たちがかけ声を上げながら、高さ５㍍、長さ十数㍍、重さ約５㌧の山笠同士をぶつけ合うと、会場には、ドカン、ドカンと大きな音が響き渡り、大勢の観客から歓声が沸き起こった。

苅田山笠は580年を超える歴史を誇る、宇原神社（同町馬場）神幸祭の行事の一つ。五穀豊穣（ほうじょう）を祈る15日間の祭りの中で、13基ある山笠の装飾が３回変わるのが特徴。これまでに、ちょうちんで闇夜を照らしながら町内を巡行する「灯山（ひやま）」、魔よけの赤い幟（のぼり）を掲げる「幟山」へと姿を変え、この日は色鮮やかな「岩山」に変身してフィナーレを迎えた。

初めて苅田山笠を見たという小倉南区の30代の会社員男性は「激しさにびっくりした。間近で見られて良かった」と満足そうだった。

北九州市の小学生が民間スクールで水泳授業 民間委託検証、着衣泳法学ぶ

北九州市教育委員会が民間のスイミングスクールに委託する小学校の水泳の授業が９月29日、八幡西区の「フェニックススイミングスクール下上津役」であった。背景にあるのは学校プールの老朽化対策。水泳授業の民間委託は本年度から３小学校をモデル校に始めており、2025年度以降に本格的に導入するか検証を進める。

この日、授業を受けたのは中尾小（同区）の５、６年生約120人。今夏も多発した水難事故を受け、服を着たまま水に入るとどうなるかを体験して、助かるための方法を学んだ。

指導員は、溺れそうになったらまず上を向き、浮いて待つよう説明。児童はゴーグルを着けずに着衣の泳ぎを体験すると、「動きにくい」「３倍重い」などと、水着で泳ぐ場合との感覚の違いを口にした。

北九州にeスポーツ新拠点 プロ技術指導スクールも

アニメや漫画、アイドルなどサブカルチャーの関連ショップが集まる商業施設「あるあるCity」（北九州市小倉北区浅野）に、デジタルゲームの腕前を競う「eスポーツ」を楽しめるカフェが新たにオープンした。北九州市で初めて、プロ選手が対面で技術を教えるスクールも近く店内で開講する。国内外で競技人口が膨らむ成長分野で、市も「まちの魅力が増す強力なコンテンツだ」と歓迎している。

自然光が差し込む明るい店内。中央に飲食できるカウンターを配し、周辺にオンラインで対戦型ゲームなどができるパソコン９台が並ぶ。ヘッドホンやマイクを備え、椅子は長時間のプレイでも疲れにくいゲーミングチェアをそろえた。

「マイナビ　ツール・ド・九州」小倉で開幕 思わずのけぞるスピード、世界レベルの走り体感

初開催の国際自転車ロードレース「マイナビツール・ド・九州2023」が始まった10月６日、北九州市小倉北区の小倉城一帯を周回するエキシビションレース「小倉城クリテリウム」が行われ、沿道に集まった多くの観客が、世界レベルの走りに盛り上がった。

小倉城前を発着点とする約１時間のクリテリウムは、平均時速約46㌔の高速レースになった。目と鼻の先を、選手たちが風を切る音とともに駆け抜ける様子に、沿道からは「おお！」「速い！」と声が上がり、思わずのけぞる人もいた。仕事の休憩時間に同僚と見に来た女性（37）は「自転車レースは初めて。すごい迫力でびっくりした」と話した。観客たちはレース後も拍手したり手を振ったりしてねぎらい、笑顔で手を振り返す選手もいた。

豊前の小学６年生がボクシング全国Ｖ 「緊張せず臨めた」市長に報告

９月に後楽園ホール（東京）で開かれたボクシングの「第５回ジュニア・チャンピオンズリーグ全国大会」の「U－12男子50キロ級」で優勝した豊前市の黒土小６年松本光昇（みのり）さん（11）が同市役所を訪ね、「緊張することなく試合に臨めた」と優勝を報告した。

「日本一のフィットネスのまちに」豊前の42歳、ボディービル全国優勝

豊前市のフィットネスジム経営の今村健太さん（42）がボディービルの全国大会40歳以上の部で優勝した。30代前半から健康づくりのためにトレーニングを始めて約10年。「豊前市を日本一のフィットネスが盛んなまちにしたい」と夢を語る。

「新幹線の見える丘」春日市の公園内にオープン

国内最大級の新幹線の車両基地「JR西日本博多総合車両所」（春日市、那珂川市）の新幹線が見渡せる春日西多目的広場公園（春日市白水ケ丘）が10月１日､オープンした。園内の「新幹線の見える丘」では、さっそく新幹線を撮影する家族連れの姿がみられた。

公園を整備した春日市は2025年度までに、車両基地を見下ろせる展望台も園内に建設する予定。福岡空港への着陸を控え、低い位置を飛ぶ航空機の撮影もできるスポットでもあり、鉄道ファンや外国人観光客らを呼び込む観光拠点化を目指す。

公園は面積約１万５千平方㍍で、広場や幼児用遊具を備える。26年度までに南側に隣接する春日西野球場の外野フェンスを撤去し、３万平方㍍の公園として一体整備する。

良質な酒造りを祈願「福酒奉納祭」福岡市博多区で30蔵元参加

良質な酒造りを祈願する「福酒奉納祭」が10月１日、福岡市博多区の福岡国際センターであった。県酒造組合加盟の約30蔵元がえりすぐりの銘柄の４合瓶などを奉納した。

えとの10番目「酉（とり）」が酒つぼを表す象形文字とされることなどから、10月１日を「日本酒の日」として奉納祭を櫛田神社（博多区）で毎年開催。今年は酒を飲み比べできる同組合のイベント「＆SAKE　FUKUOKA（アンド・サケ・フクオカ）」の開催時期と重なったため、イベント会場の福岡国際センターで奉納祭も行い、焼酎を造る蔵元にも参加を呼びかけた。

同組合の江崎俊介会長は「日本酒も焼酎もコロナ前の８割程度しか売り上げが回復していない。今日をコロナ明けのキックオフにしたい」と意気込んだ。

福津市にレンタサイクル「リンリン」光の道や世界遺産周遊へ企画

秋の行楽シーズンに合わせ、福津市の観光交流施設「津屋崎千軒（せんげん）なごみ」とJR福間駅（同市）２階にある行政・観光情報ステーション「ふっくる」が、９月からレンタサイクル事業「リンリン」を始めている。

福津は「光の道」でも有名な宮地嶽神社や世界遺産など観光名所は多いものの、点在している。観光客の周遊手段を確保するため、自転車を有料で貸して滞在時間を延ばし、地域振興につなげようと、一般社団法人「ひかりのみちDMO福津」と「ふくつ観光協会」が企画した。

なごみとふっくるで普通の自転車12台と電動アシスト付き２台を準備した。料金は普通自転車が２時間500円、電動が同800円。１日だと普通千円、電動1500円。世界遺産を構成する市内の新原（しんばる）・奴山（ぬやま）古墳群を巡るガイド付き自転車ツアーも検討している。

東峰村の窯が再建目指しCF 記録的大雨で全壊…「奇跡のつぼ」など返礼品に

７月10日の大雨による土砂崩れで、店舗や作業場などが全壊した小石原焼の蔵人（くらんど）窯（東峰村）が10月７日から、インターネットを通じて寄付を募る「クラウドファンディング」（CF）を始める。目標金額は300万円。11月30日まで。保管していた数百点の陶器はほぼ割れてしまったが、土砂の中から無傷で見つかった「奇跡のつぼ」を返礼品として寄付者に贈る。

蔵人窯は、小野永蔵さん（69）と妻の昌子さん（67）、長男の雄大さん（37）夫婦が作陶する。７月10日午前７時ごろ、店舗と作業場に隣接する自宅にいた雄大さんが裏山の異変に気付き、５歳と２歳の子どもを夫婦で抱いて避難している最中に、土砂と流木が自宅など４棟を飲み込んだという。幸い、雄大さん家族にけがはなく、昌子さんは「神様に感謝しないといけない」と前を向く。

「甘木観光ホテル甘木館」立ち寄り湯の営業再開 福岡記録的大雨で浸水被害

７月10日の大雨で浸水被害を受けた朝倉市の「甘木観光ホテル甘木館」は10月１日、大浴場の一部の風呂が復旧し、立ち寄り湯の営業を再開した。10月５日には、地元の甘木町敬老会関係者とその家族に限り、入浴料と大衆演劇の観劇料を無料にした。

筑紫野市「理想のまち」づくりへ 地元高校と包括連携協定

筑紫野市と筑紫高（同市針摺東）は10月３日、包括連携協定を結んだ。同市が高校と協定締結するのは初めてで、「誰もが暮らしてみたいまち」に向けた取り組みを若者視点で進める狙いがある。

市が６月に開いた第７次総合計画策定に関するまちづくりワークショップには同校の２年生15人が参加。大学生らとともに「理想のまち」について意見を出し合った。市は今後も同様の機会を増やす考えで、地域課題について学ぶ授業に市職員を派遣するなど相互協力を続ける。

遠賀川河川敷を彩るヒガンバナ 小竹町で「ひがん花まつり」

小竹町のNPO法人「『小竹に住みたい』まちづくりの会」（吉良久吾理事長）は９月23、24日、「ひがん花まつり」を同町の旧役場前にある遠賀川河川公園で開いた。新型コロナ禍の影響で４年ぶりの開催。６回目を迎えた今年は、両日合わせて町内外から約1800人が訪れた。

会場ではカヌーの無料体験（24日のみ）や、巨大迷路などの大型施設を設置。そのほか、たこ焼き屋や手芸品店など30店の出店が並んだ。宗像市から家族と一緒に来て、カヌーを初体験したという加藤想多朗ちゃん（４）は「楽しかった。次は迷路に行きたい」と声を弾ませていた。

宮若全国俳句大会、福岡で４年ぶり入選作表彰式

22回目を迎えた宮若全国俳句大会の入選作が決まり、新型コロナ禍で中止となっていた表彰式が４年ぶりに開かれた。全国から953句の応募があり、10人の選者が計123句を選出。その中から茨城県土浦市の野口英二さん（83）の「地に叩（たた）き荒縄の凍（い）て解きにけり」が最優秀のグランプリ大賞に選ばれた。

野口さんは俳句歴約40年で趣味として楽しむ。この大会では４度目の入選といい、大賞受賞は初めて。「びっくりした。高齢で九州まで足を運べなかったのが残念。来年以降も応募を続けたい」と喜びを表した。

受賞句は、寒冷地で生まれ育った冬場の体験をモチーフにした。「まきを割り、束ねる際に使うための縄が翌朝に夜露で凍り付いて使えなくなる。地面に縄をたたきつけると、薄氷がはがれて使えるようになる。そんな思い出を詠んだ」

表彰式は９月18日に宮若市の脇田公民館であり、選者の野見山ひふみさん（100）は野口さんの句について「表現から情景が目に浮かぶよう」と講評した。

田川市の小学６年生、テコンドー全国大会優勝

テコンドーの全国大会「第16回全日本ジュニアテコンドー選手権大会」のキョルギ（組手）部門で優勝した田川市立伊田小６年の清川綾斗さん（12）が市役所を訪れ、村上卓哉市長に結果を報告した。

清川さんは同市の玄武会内村道場に所属。７月に東京で開かれた大会で小学６年男子マイナス37㌔級に出場し、トーナメント戦を勝ち抜いて優勝をつかんだ。

９月20日に市役所を訪問した清川さんは「１回戦はふつうに勝てた。残り２試合は、道場の内村嵐コーチに『フットワークを生かして』とアドバイスをもらって、勝つことができた」と胸を張った。

村上市長は「両親やコーチに感謝しながら練習に励んで、田川市の名前を日本で、世界で売り込む活躍をしてください」とエールを送った。

「もう一つのWBC」世界身体障害者野球大会 田川市出身の竹下さん優勝報告 「次は投手にも挑戦」

「もう一つのWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）」とも呼ばれる「第５回世界身体障害者野球大会」（９月開催）で、２大会連続４度目の優勝を飾った日本代表の野手、竹下祥平さん（31）＝北九州市小倉北区、田川市出身＝が同市役所を訪ね、村上卓哉市長に世界一を報告した。竹下さんは、今年の野球のWBCで最優秀選手に選ばれた大リーグの大谷翔平選手と名前の読みが同じことから「次は投手にも挑戦します」と二刀流を目指す意気込みを語った。

優雅にダイナミックに４年ぶり「大分の獅子舞」

五穀豊穣（ほうじょう）を願う放生会が飯塚市大分の大分八幡宮であり、伝統の「大分の獅子舞」が奉納された。県内の多くの獅子舞はここから伝わったとされ、県無形民俗文化財に指定されている。開催は新型コロナ禍を経て４年ぶり。

林芙美子、毎年10月を顕彰月間に 少女時代過ごした直方市の画廊 生誕120年で記念イベント

直方で少女時代を過ごしたとされる作家林芙美子（1903 ～ 51）が今年生誕120年を迎え、直方市殿町で「画廊カンヴァス＆めし屋」を営む池田暁美さん（74）が、10月に入って記念イベントを開いている。ゆかりのスポットを巡る「文学散歩」などを計画。「今年から毎年10月を顕彰月間とし、直方との縁があった芙美子を発信していきたい」との思いを込める。

林芙美子は、自伝的小説『放浪記』で「直方の炭坑町に住んでいた私の十二の時」と書いた。この記述などから、直方文化連盟が同市須崎町公園に12歳当時の姿を現した銅像『夢馳（は）せる芙美子』を建立。多賀神社と西徳寺には文学碑があり、市内にはゆかりの場所が多い。

陸自幹部候補生学校、237人が入校式

陸上自衛隊幹部候補生学校（久留米市高良内町）の入校式が９月29日にあり、一般幹部候補生237人が式典に臨んだ。

同校は陸自の幹部自衛官を育成する唯一の機関で、全国各地から幹部を目指す隊員が集まる。今回入校したのは、筆記や実技試験を経て全国の部隊から選抜された陸曹たち。

式典で吉川徳等学校長が「自分は何をなすべきかを常に考え、失敗を恐れず果敢に挑戦してもらいたい」と激励。小林弘樹陸上幕僚副長は「陸上自衛隊を支える幹部自衛官になることを期待する」と鼓舞した。

入校生は約５カ月間、幹部として必要な知識や技術を身に付けるための訓練をする。

「TSMC関連進出の好機生かせ」大牟田市の新産業団地　臨海部を造成候補地に

大牟田市は、新たな産業団地の造成候補地に市西部の臨海部エリアを選定したと明らかにした。熊本県菊陽町には台湾の半導体大手、台湾積体電路製造（TSMC）が進出。周辺への関連企業の進出も相次いでいる。直線距離で約40㌔の大牟田市にとっても経済効果を取り込む好機だが、市内の団地内の用地は残りわずか。このため最短で2028年度までに30㌶程度の大規模な新団地を造り、企業誘致と雇用創出を目指す。

「赤い羽根募金」ポスター、うきはの最優秀賞に千年小５年生

うきは市社会福祉協議会は９月30日、赤い羽根共同募金運動で使うチラシ用ポスターの作品募集の表彰式を同市で開いた。最優秀賞には、千年小５年の吉松知哉さんの作品が選ばれた。７月の大雨の被災地で活動するボランティアや支援に対する感謝の気持ちを描いている。

作品募集は夏休み期間、市内の小学生を対象に実施し、36点が寄せられた。佳作は御幸小５年、廣底侑さんと大石小３年の佐藤心咲さんに決まった。

久留米市のドリームスFM、10月２日からラジオで高校入試説明会

高校生や教員がそれぞれの学校の魅力やカリキュラムをラジオで伝え、受験生を呼び込む企画「地元高校ラジオ入試説明会」が10月２日から、久留米市のコミュニティーラジオ局「ドリームスFM」の番組内で放送される。２年前から始まった企画で、放送後は動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開され、忙しい保護者や中学生に好評だ。

「短時間の説明会のために仕事を休めば収入に響く。ラジオで流してくれないか」との保護者からの要望を受け、2021年に試験放送を実施。昨年は久留米市や佐賀県鳥栖市などの18校が参加し、今年は朝倉市や大川市の学校も加わり23校に増えた。

魅力はラジオパーソナリティとの掛け合い。学校生活でのホットな話題をランキング形式で発表するほか、授業内容や進路情報を15分の放送時間内でテンポよく伝える。「夢中になれるものを応援してくれる学校」など、生徒自身がアピールする場面も。

月～金曜の地域情報番組「ハピネスワールド」内の午後２時５分から15分間放送。11月１日まで各校の収録内容を交代で流す。

番組スポンサーには地元企業が連なる。熊手彩人社長は「地域の子どもたちを地元企業が応援してくれている。地元の良さを発信することで、地域活性化のきっかけになれば」と願う。

福岡県２人目、「茶師十段」に八女市星野村の山口さん、兄に続き　産地振興へ「技術伝えたい」

茶の品質や産地の鑑別技術を競う「第70回全国茶審査技術競技大会」（９月、鹿児島市）で、星野製茶園（八女市星野村）店長の山口洋介さん（43）が、最高位の茶審査技術十段（茶師十段）に認定された。県内では兄で専務の真也さん（45）に次いで２人目、全国でも22人しかいないスペシャリストに仲間入りした。今後は「社内外の人に技術を伝えていきたい」と語り、産地のさらなるレベルアップへの貢献を誓う。

浮羽工業高ロボット部、全国へ　大雨で校舎被災、製作中断乗り越え福岡県大会初優勝

自作したロボットの技術を競う全国大会「全国高校ロボット競技大会」（10月28、29日、福井市）に久留米市田主丸町の浮羽工業高ロボット研究部が初めて挑む。７月の記録的大雨で校舎が被災し、製作中断に追い込まれながらも、県大会初優勝を果たした。さらなる高みを目指し闘志を燃やす。

チーム名は「春山茶花（はるさざんか）」。「困難に打ち勝つ」という花言葉通り、昨年はあと一歩届かなかった県大会を、今年は２位に倍以上の点数差をつけて制した。

令和5年度 第2回理事会報告

一 開催日時

9月25日（月）18時～19時

二 開催場所

都道府県会館1階会議室

三 出席者

会長　古賀　信行
副会長　鬼塚　信子　古藤　俊一
自見庄三郎　田中　達也
三喜　俊典
名誉会長　大須賀頼彦
最高顧問　大坪　修
名誉理事　北村　憲雄
理事　青木　淳子　東　聖高
池田　悦雄　牛島　康明
内田　直人　梅原　英毅
大隈　勝也　太田　知宏
片山　紀雄　辛嶋　保馬
岸　清美　北原　孝吉
高良　季征　佐藤　世事
澤田　和昭　篠原　政美
城崎啓一郎　髙木　裕康
髙山喜一郎　田島　登吾
田中　健二　辻野　吉勝
土井　健　徳久　徳博
中原　孚　永本　芳生
古島　英治　増野　千晶
増田　和彦　松下ユリ子
松行　俊二　山上　勉
山口　洋志　吉田　智洋
監事　江口　俊治
委任状参加
副会長　柏原　孝　瀬戸　渡
田代　民治　玉木　康裕
福山　祐子
名誉理事　長谷川裕一
理事　出光　正道　伊東　幹雄
梅﨑　壽　江本　光敏
甲畑眞知子　齋藤　弘之
白木大五郎　白谷　政則
塚本　哲　椿　一茶
永岡　圭介　中西　佳子
中村　真一　西本　逸郎
原沢　由美　藤光ミエ子
古野　英子　森山　和久
結城　謙吾

四 定足数の確認

委任状参加含め理事68名及び監事1名の出席あり、理事会は定足数を満たし、適法に成立。

五 議長就任

定款30条に基づき議長に古賀信行会長が就任。

六 追悼

9月25日逝去された片峯誠飯塚市長を悼み黙祷。

七 委員会・同好会報告

1. 2023総会懇親会準備状況

田中達也担当副会長から実行委員会の準備状況を報告。

①参加申込数145名（9月15日時点）。目標に程遠く関係各位の協力を要請。

②筑豊地区市町村より多大な協力をいただいており深謝。

2. 同窓会協力委員会

土井健委員から「就活を応援する会」の実施要領（案）を報告。10月10日の同委員会で決定見込み。

（開催日）11月26日（日）
（会　場）中央大学駿河台キャンパス内施設
（実施要領）講演会・座談会＋懇親会形式
（参加人数）100～150人

3. 国際交流委員会

青木淳子委員長から活動状況を報告。

①毎月の定例会の実施。

②今後の目標として2025年「海外福岡県人会世界大会」歓迎会の準備を進める。

4. 未来を創る会

田島登吾事務局長から4年振りに開催した新入会員オリエンテーションの開催結果を報告。2回とも活況裡に開催。今後も継続的開催を行う旨報告。

①第1回（7月26日）
参加46名（うち新入会員32名）

②第2回（8月30日）
参加46名（うち新入会員32名）

5. 東京とびうめ会

片山紀雄会長から9月27日開催予定の「第15回東京とびうめ会」の準備状況を報告。参加予定者約170名。当初予定数を大幅に上回る申込あり。

6. 会務報告

田島事務局長から4月～8月の収支実績及び貸借対照表を報告。

①収支実績
純利益2，349千円
（前年同期　1，378千円）

②8月末純資産56．5百万円
（前年同期56．5百万円）

③会員動向
929名（年度初より12名減）

7．会報編集委員長交代報告

牛島康明編集委員長から12月末を以て委員長を辞任する旨報告。次期委員長には與小田健現編集副委員長が就任予定。

以上の全報告事項について理事会は承認。

八　自由討議

1．ソレイユの会

委員会・同好会活動を支援する女性の会「ソレイユ」の増野千晶理事から会議の開催（12月16日）と今後、女性以外の会員との交流も進める方針を報告。

2．故ダニエル・イノウエ米上院議員の彫像

大坪修最高顧問が、故郷八女にルーツを持つ故イノウエ議員の彫像を制作され、ハワイの然るべき場所に設置を希望されている。県および県人会に協力の要請あり。

3．NHK大河ドラマ

高良季征理事からNHK大河ドラマに「立花宗茂と闇千代」を招致する活動に県および県人会からの応援の要請あり。

以上

理事会風景

議長（古賀会長）

夢語り千夜　『ラブ・レター』

浅田次郎作（集英社文庫『鉄道員』所収）

日　程　2023年11月30日（木）　19時開演
12月１日（金）　13時30分開演
19時開演
（開場は開演30分前）

会　場　溝ノ口劇場
（川崎市高津区久本３-１-５ミュージション溝の口B1F）
TEL　044-850-0038
東急田園都市線・大井町線「溝の口駅」徒歩４分
ＪＲ南武線「武蔵溝ノ口駅」徒歩３分
https://www.mizogeki.com/access

チケット　【前売】大人 4500円　学生 2500円（中学生以上対象）
【当日】各500円追加　途中入場不可
（チケットお申込み）夢語り千夜事務局
yumenosenya@yahoo.co.jp

こちらのＱＲコードからもお申込みいただけます

ある春の夕暮れ、釈放されたばかりの吾郎は、偽装結婚をしていた見知らぬ妻、白蘭が亡くなったことを知る。吾郎は、残された白蘭の手紙と共に、彼女の遺体を引き取るため千倉へと向かう。

それは、吾郎の魂の再生の旅でもあった。２通の手紙が男を変える。生と死と再生の恋物語。

（演出上、冒頭部分のみ朗読、その後は暗唱の一人芝居）

語り部：夢語り千夜　靜（ゆめがたりせんや　しず）
語り部、俳優、脚本家、演出家
主　催：夢語り千夜
後　援：川崎市・「音楽のまち・かわさき」推進協議会
かわさきＦＭ（79.1MHz）・溝ノ口劇場

（語り部　靜）

博物館・美術館探訪　第35回

北九州地区

旧門司三井倶楽部

〒801-0852 北九州市門司区港町7番1号　☎093-321-4151
（門司港レトロ総合インフォメーション）

当館は、1921（大正10）年に三井物産の優雅な社交場として、山手の新興住宅街であった門司区谷町に建築された。戦後の財閥解体とともに旧国鉄に買収されるまで、世界中の客人をもてなした。平成２年に国の重要文化財に指定。北九州市へ譲渡され、５年の歳月をかけ谷町から現在の門司港レトロに移築された。

柱や梁などのダークブラウンの木部を外観に現す、ヨーロッパ伝統の“ハーフティンバー様式”を採用した佇まいの洋館。１階はホールを中心に、食堂、応接室、客間。２階には居間や寝室、浴室がある。館内には、幾何学模様のアールデコ調の装飾やステンドグラス、モザイクタイルが施されている。1922（大正11）年には、アインシュタイン博士夫妻が出版社の招きで、43日間に及ぶ講演旅行の際、５日間も滞在した。現在２階エリアでは、当時宿泊した寝室や居間の内装を再現した「アインシュタインメモリアルルーム」を一般公開している。また、門司出身の女流作家林芙美子の生涯や、作品などを紹介する「林芙美子記念室」も同様に公開している。

和洋レストラン三井倶楽部

＊画像提供：北九州市門司港レトロ課

【アクセス】　JR門司港駅から徒歩１分

（髙橋　未菜美）

筑後地区

北原白秋生家・記念館

〒832-0065 柳川市沖端町55番地1　☎0944-72-6773

北原白秋生家は、2015（平成27）年に国の名勝指定を受けた「水郷柳河（すいきょう）」の構成要素となった。近代日本を代表する詩人北原白秋の顕彰施設として、また柳川城下の漁港、商業港として栄えた沖端（おきのはた）に継承された町家を体験できる文化財公開施設として、1969（昭和44）年に開館した。建物は、海鼠壁（なまこかべ）が美しい瓦葺一部二階建の町家で、幕末から明治初期の建築と考えられる。北原家は柳川藩御用達の海産物問屋を営む旧家であったが、明治以降は酒造業を始めて隆盛を極め、白秋は良家の坊ちゃんという意味の「トンカジョン」と呼ばれていた。

館内では酒造家としての北原家の生活空間が再現され、白秋の生い立ちや作品を紹介している。また中庭には、からたちやざぼんが植えられ、掘割に面した石組みの船着場から水面に臨むとアメンボや魚、カニなど少年時代の白秋が目にした水辺の風景を体感することができる。

北原白秋記念館館内展示

北原白秋記念館は、白秋生誕100年にあたる1985（昭和60）年に、かつて北原家の酒倉があった生家南側に併設され、白秋の初版本等の文学資料や映像で白秋の生涯と業績を紹介している。また市立歴史民俗資料館として、柳川の民俗資料も展示されており、見ごたえがある。

＊画像提供：（公財）北原白秋生家記念財団　　資料提供：柳川市生涯学習課文化財保護係

【アクセス】　西鉄柳川駅よりバスで「水天宮入口」下車　徒歩５分

（牛島　康明）

郷土ゆかりの地を訪ねる　第17回

今回は柳川が生んだ国民的詩人、北原白秋ゆかりの地を訪ねる。　（牛島　康明）

＊1885（明治18）年～1942（昭和17）年

紫烟草舎（市川市）

北原白秋は、31歳であった1916（大正５）年の夏から約一年間、当時小岩にあったこの離れにおいて、赤貧に耐えながら童謡などのすぐれた作品の創作を続けた。

白秋自身が紫烟草舎（しえんそうしゃ）と名づけたこの建物は、その後とりこわされ、解体されたままになっていたが、市川市はすべて当時のままに、里見の地に復元した。復元の地を、ここにもとめたのは、小岩に移り住む前、白秋が市川市真間（まま）の亀井院に住んでいたこと、小岩に移ってからも対岸の江戸川堤から眺めるこの里見の風景や葛飾の野を、こよなく愛していたことによる。

建物の脇に立てられた歌碑には「華やかに　さびしき秋や　千町田の　ほなみがすゑを　群雀立つ」という白秋の歌が刻まれている。

紫烟草舎

＊画像および資料提供：市川市

所　市川市国府台3-9-1（里見公園内）

交　JR市川駅または京成国府台駅から「松戸駅行き」または「松戸営業所行き」バス乗車。「国府台病院」で下車し、徒歩5分

「白秋童謡館」（小田原市）

白秋童謡館

当館は、同一敷地内に「小田原文学館」と共にある。元は戦前宮内大臣を務めた田中光顕（みつあき）の別邸。

白秋は19歳で故郷柳川から上京後、33歳の1918（大正７）年春から1926年までの８年間を温暖な気候と豊かな自然に恵まれた小田原で過ごした。自宅の建築、長男の誕生など家庭的にも充実した日々を過ごし、生涯で作った1,200編に及ぶ童謡作品の内、約半数はこの期間に創っている。『雨』『赤い鳥小鳥』『あわて床屋』『ちんちん千鳥』『揺籃のうた』『砂山』『からたちの花』『かやの木山の』『ペチカ』『待ちぼうけ』『この道』など。

しかし1923年の関東大震災で自宅が半壊したので、後に東京の谷中に転居した。

柳川市にある「白秋記念館」では、「その日のこと」 ―その時、私は二階の書斎にゐた―と題した、特別展を来年３月末まで開催している。

＊画像・資料提供：小田原市

所　小田原市南町2-3-4　☎　0465-22-9881　交　JR小田原駅から徒歩21分

「白秋童謡の散歩道」（小田原市）

白秋は小田原市内を散策しながら多くの童謡を創作した。著書『緑の触覚』に、「私には私としての幼児の追憶や、小田原水之尾道で見た必然的なからたちの花の縁由（えんゆう）がある。『からたちの花』は大正十三年五月十三日の作である」と記している。

小田原市は、この水之尾道の一部を「からたちの花の小径」と名付け、市民により「からたち」が植樹された。

また小田原市は、この小径を含め、小田原駅から「白秋童謡館」までの4.5kmを「白秋童謡の散歩道」として整備した。散歩道の随所には童謡に関連したタイルが埋め込まれ、案内板も設置されている。歩数にして8,500歩、所々の立ち寄り時間込みで所要時間３時間のこの散歩道を、白秋の作品に思いを馳（は）せながら楽しまれてはいかがでしょうか。

白秋童謡の散歩道　敷石

＊画像・資料提供：小田原市

Welcome aboard －福岡から世界へ－

vol. 02

福嶋望実
（国際交流委員）
東京藝大卒業後、ミュージカル勉強のため英国留学中

9月から10月にかけて、フランスで開催されました「ラグビーワールドカップ2023」。その日本代表選手に、母校修猷館のクラスメイトである下川甲嗣君が選ばれ、開催地のトゥールーズへ応援に行きました。そのことについてと、世界中に点在する福岡県人会の一つ、在仏福岡県人会の皆様との交流について、２つの経験をご報告させていただきます。

まずは9月29日（金）の日本vsサモア戦。日本のユニフォームを着た方が試合前日から街中に見受けられ「応援頑張りましょう！」と声を掛け合っていました。ライブビューイング用のラグビー村もできており、街全体で盛り上がっている様子。トゥールーズはフランス第４の都市で、治安も良く人も穏やか。ラグビーの首都と呼ばれるほど、ラグビーが盛んな街です。当日になるとその熱はさらに増し、お寿司の帽子を被った人や、サムライ姿にハチマキを巻いている現地の方に出会い、日本の応援をしてくださっている姿に驚きました。

そして会場内へ！およそ33,000人を収容する巨大なスタジアム。選手との距離はとても近く、目の前で高校の同級生の下川甲嗣くんがウォーミングアップをしている姿を見て、感動の涙でうるうるしながら席に向かいました。

いよいよ試合開始です。現地で見る世界トップレベルの試合のタックルは、びっくりするほど力強くそして速く、選手の体が浮く瞬間を何度も見ました。激しい内容にドキドキしながら、ついに試合の終盤を迎えたそのとき、甲嗣の登場…！「ナイスタックル！」「大丈夫、大丈夫！」「いけー！」という声が響き渡ります。世界を相手に果敢に戦う彼の姿は、たくさんの勇気と感動を与えてくれました。彼の初めてのW杯を、同級生たちと一緒に見届けることができて本当に光栄です。一生忘れられない、素敵な思い出となりました。

試合終了後、同級生“甲嗣”と

話題になった「修猷館魂」

続いてパリの在仏福岡県人会へ。北アフリカの伝統料理クスクスのお店にて開催。私の他には６名が参加されていました。在仏約60年にもなる方や、世界を渡り歩いてこられた方など、様々な経験を持つ皆様とお話しすることができました。お食事のスタイルは、大皿に入ったクスクス、そして大きなポットに野菜がゴロゴロ入ったとっても美味しいスープが中央に置かれ、それぞれが注文したチキンやソーセージ、肉団子と一緒につぎ分けて食べるというもの。美味しすぎておかわりを何度もしました。

北アフリカはかつてフランスの植民地であったことから、このような本格的なものが渡ってきているとのことでした。また、私の知らない福岡の昔についても教えていただき、日本から遠く離れたこのパリで、自分の地元の話ができることにうれしさを噛み締めました。

このような素敵な交わりが世界中で行われていることを、この国際交流委員会に参加させていただくことで、知ることができました。福岡の皆さんのグローバルな活躍をより多くの人に、そして特に若い世代の人に知ってもらいたいと思います。そして私もその１人となって福岡をさらに盛り上げていけるよう精進して参ります。在仏県人会の皆様、素敵なひと時をありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

報告　福嶋 望実

クスクス料理のお店にて

在仏福岡県人会の皆さまと

東京福岡県人会

就活を応援する会

福岡県内の高校を卒業された就活生のみなさんへ

福岡県内の高校の同窓会合同による『就活を応援する会』を開催します。
大学生・大学院生のみなさん、ぜひ積極的にご参加ください！

2023 11月26日 日
14：00 ▶ 17：30

第1部 14:00～15:30
第2部 15:30～17:30

対象 福岡県内の高校を卒業された学生の皆さん

場所 中央大学駿河台キャンパス 19 階
「Good View Dining」
東京都千代田区神田駿河台 3-11-5
https://goodview-dining.jp/surugadai/coupon_access/

内容 【第一部】（講演会・座談会）各校卒業生から勤務先紹介・就職アドバイス
【第二部】（懇親会）興味ある職種や職場に関する個別の質疑応答、先輩方との交流

会費 学生 2,000 円、社会人 7,000 円
（同窓会から補助が出る場合がありますので、卒業した高校の同窓会にご確認ください。）

就活生から一言

同郷の先輩方とこれほど濃い時間を過ごせることは滅多にないと思うので、この機会を大切にし、お互い頑張りましょう!

青山学院大学（田川高校卒）
身吉　響さん

当日のドレスコード

基本自由ですが、あまりラフになり過ぎないように
(Gパン、げた履き、サンダルはNG)。

前回写真（2019 年）

©中央大学広報室

申　込 ▶ 「東京福岡県人会 同窓会協力委員会」会員各校の同窓会に申し込んでください。
申込方法を個別にお知らせします。 **申し込み締め切り 11月17日**

連絡先 ▶ 各校同窓会　事務局 または 就活支援担当
高校同窓会がない場合は「就活を応援する会」実行委員会　永田　良二まで
e-mail：nagatary@nifty.com

東京福岡県人会 同窓会協力委員会　「就活を応援する会」実行委員会

同好会だより

第15回　東京とびうめ会

令和元年11月5日に第14回を開催して以来、4年ぶりの開催となった第15回「東京とびうめ会」を9月27日に開催しました。この会は、福岡のお酒と焼酎を愉しく飲みましょうというのが趣旨で当初は80名の参加を見込んで計画を進めておりましたが、当日が近づくにつれ、参加者が増え、当日出席159名となり、予約の部屋を急遽広い部屋へと変更しました。

今回指名した酒蔵が飯塚市にあり、市より鏡割り用樽酒、テーブル上の清酒類のご援助をいただきました。また、当会幹事長の辻野吉勝氏からはテーブル上の焼酎2種を寄贈いただいたこともあり、予算内で収めることができました。土産物も飯塚市、嘉麻市、田川市、みやま市、高橋幸子様等からのご寄贈をいただきました。本当にありがとうございました。

開会に先立ち、会の立ち上げに関わられた原会長、そしてこの会の開催を心待ちにしておられたものの、2日前の25日に亡くなられた片峯飯塚市長に全員で黙禱を捧げました。

会場では飯塚市、田川市、嘉麻市のスライドや、みやま市の動画を流していただき、いよいよ開幕です。会長である私、片山の開会挨拶に続いて、ご支援をいただいた飯塚市経済部特産品振興・ふるさと応援課課長補佐の進成具様にご挨拶をいただき、鏡割りへ。県人会副会長・鬼塚信子様に乾杯の発声をいただきました。

〈アトラクション〉

①太神楽の鏡味味千代（かがみみちよ）さん、落語家の瀧川鯉朝（たきがわりちょう）さんが登場。

②お馴染み港アケミさんの歌謡ショーと、踊りは当会幹事の徳久徳博さん

③お楽しみ抽選会

会をしめくくるのはやはり、港アケミさんの『炭坑節』。歌に合わせて、全員で会場狭しと踊りました。

中締めは吉村春仁氏によるご挨拶。参加者全員が自宅出発より帰宅まで傷害保険に入会しております。皆さま安心しておいしいお酒を愉しみにいらっしゃいませんか。

（片山　紀雄）

第196回つづら会報告

9月23日（土）、連日の猛暑も少し和らいだ秋分の日、第196回つづら会が開催されました。今回のコースは谷中・根津・千駄木（通称：谷根千）。朝から降っていた雨も出発時にはやみ、参加29名が和気あいあいとウォーキングを楽しみました。

日暮里駅を出発し、谷中商店街入口の夕やけだんだん（夕日が綺麗に見える階段）を通り、開店早々の商店街を通過し、須藤公園で小休憩。こちらは加賀前田藩の支藩、大聖寺藩主・松平備後守の江戸下屋敷跡で大名庭園の面影を残すお薦めの公園です。

森鴎外記念館前を通り、根津神社へ。本来は秋の紅葉を楽しんでいただこうと11月にこのコースを予定していましたが、雨上がりの晩夏の、深く濃い緑の葉も目に鮮やかでした。「へび道」と呼ばれているくねくねと曲がっている路地は、昔ながらの町屋が軒を並べ、おしゃれな店もあり、個人的にもまたこのコースを散歩してみたいとの感想をいただきました。

昼食会場は、日暮里駅北口の「さくら水産」。昼定食をいただきながらの歓談タイムです。

今回も20から90歳代まで幅広い年齢の方々が参加してくださいました。月に一度開催のつづら会はとても楽しい時間を過ごすことができると思います。

お一人でも、友人とご家族とでも気楽に参加できますので、ぜひ一緒に歩いてみませんか。参加をお待ちしております。

報告　増野　千晶

第197回つづら会開催案内

今回は「豊洲市場から月島へ」と題し、2018年に築地から移転した東京の台所・豊洲市場。晩秋の11月を爽やかなウォーキングで楽しみましょう。皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

開催日時　11月25日（土）午前10時（集合）
集合場所　ゆりかもめ線「市場前」駅
豊洲市場行改札
参加会費　1，500円（昼食代込み）
緊急連絡先　090-7007-3627 土井
080-9242-9192 田中
昼食会場　月島もんじゃ風月
東京都中央区月島1-19-4
地下鉄有楽町線 月島駅
7番出口 徒歩2分
都営大江戸線 月島駅 8番出口
徒歩2分
ご留意事項　050-5593-3675
ウォーキング時のお水、お茶等は、各自ご準備・ご持参ください。
お申込み　11月17日（金）までにQRコードまたはお電話・メールにて。
世話人代表　土井　健
090-7007-3627
takecs@nifty.com

皇居を走ろう!!同好会福岡 第100回記念大会報告

まず、この同好会が100回を迎えられたことは、東京福岡県人会諸先輩方の厚いご支援とご鞭撻の賜物であり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、10月7日(土)午前10時30分、晴天の下、皇居「桜田門」日比谷側に総勢五十名が集まりました。挨拶と記念撮影の後、健脚韋駄天の平松慎治さんを先頭にスタート。皇居前広場、気象庁前、平川門、代官町通りを上がり、千鳥ヶ淵、半蔵門から国会議事堂を右にみながら桜田門を抜けてゴール。全員それぞれに100回記念を楽しみながら完走しました。

着替えた後、13時より銀座ルーツ東京で記念パーティを開催しました。冒頭は記念バッチ制作の田爪暢さんのご挨拶、続いて青木淳子理事から乾杯のご発声をいただき、久留米市東京事務所長田中健二さんのビデオメッセージ。久留米親善大使で俳優の藤吉久美子さん、原真善美さんよりご挨拶をいただき、ビンゴゲームが始まりました。

ビンゴの景品は古賀信行会長を始め、瀬戸渡副会長、青木淳子理事、岸清美理事、博多らーめん清水屋の教雄さん他、県人会諸先輩方及びご参列の皆さまからのご支援により61名全員が当選する品数となり、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

終盤では、田島登吾県人会事務局長より中締めのご挨拶、そして「祝いめでた」「博多手一本」を宮﨑祐二さん、古川美紀さんよりご披露いただき、写真家の萩尾拓朗さんによる記念撮影で大盛況のなか無事終了することができました。

この記念会の企画から実施までの全プロデュースを創立時から世話人である糸山周栄さんが担当。糸山さんは同好会の常会運営準備から告知、そしてInstagramの導入によって県人会を知らない世代への周知や、他団体ランニングチームとの友好を築くなど、糸山さんによる、飛躍的な参加人数増加への功績は計り知れません。

また、記念会の受付事務やビンゴ景品の準備受渡しでは中里由美子さん、佐藤めぐみさん、田中秀樹さん、仲光和之さんにお手伝いいただきました。

この「皇居を走ろう!!同好会福岡」は、今から9年前に瀬戸副会長（当時：業務委員長）と鬼塚副会長（当時：活性化委員長）より「若い会員が集まる新しい同好会を」とお話をいただいたことがきっかけで、以前に皇居を走ったときの爽快感を思い出し「皇居を走るランニング同好会」のアイデアを提案、8年前（2015年5月）に発足しました。

いろいろな意見など、山あり、谷ありでしたが、10名、15名、20名と会を重ねるごとに増え、市民ランナーの江本光敏理事、青木理事のご参加に加え、大須賀賴彦前会長と鬼塚副会長のご参加をいただくなど同好会の形ができあがっていきました。

この会は、ランニング未経験者が中心となって発足しましたが、徐々にランニングスキルや自信が向上し、メンバーによるマラソン大会への挑戦も実現しました。この成長は「走るって楽しいね」の延長上にある共感と、健康的な未来に向かうランニングコミュニティとしての存在とが融和した成果として、これからも友情を育みながら一歩一歩前進する会へと成長していきたいと考えています。

なお、今後の運営窓口は田中秀樹さんが担当しますので、引き続き県人会諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

（代表世話人　土井　健）

次回（第101回）開催連絡

日　時：令和5年11月11日(土)17時
集　合：皇居北端「平川門」先のベンチエリア
着替え：「ラフィネ・ランニングスタイル神田店」が便利です（1回600円）
千代田区内神田1-8-1
三井ビル1階
地下鉄「大手町」駅・JR神田駅徒歩5分
参加費：無料

＜申込み・お問い合わせ先＞

世話人　土井・田中
090-7007-3627（携帯）
takecs@nifty.com

同好会公式サイト立ち上げました。
https://lit.link/kokyorun2015fukuoka
YouTubeサイトもご覧いただけます。
QRコード読み取りにて閲覧可能です。

皇居を走ろう

第3回筑紫英彦（ちくしえいげん）OBOG会 同好会開催報告

2023年より立ち上がった筑紫英彦OBOG会。9月28日21時より新橋にて第3回を開催いたしました。

今回は発起人の田中と、17年入寮の松尾さんの2名で開催。参加が2名と少し寂しい会でしたが、松尾さんとは1年間寮生活が重なっていたこともあり、近況など様々なお話をしました。

今回の場所は、新橋の「ジンギスカン楽太郎」。福岡の会なのに、ジンギスカン（笑）。1つの理由としては、今回参加の松尾さんが大のホークスファン。関東（ZOZOマリン・ベルーナドーム・東京ドームなど）で行われるホークス戦は皆勤賞で応援に行っているそうです。どうしても行きたかった北海道のエスコンフィールドには応援に行けなかったそうで、行ったつもりで北海道名物のジンギスカンに決まりました。

最近、英彦寮出身の方が次々に結婚・出産とライフステージを進まれていると聞きました。私も昨年結婚して、子どもが産まれて…と、その中の一人ではありますが、同級生・先輩方が社会で活躍されているお話を聞けるのはとてもうれしいことです。

私たち2人が寮で生活していたときの寮監さんだった、是石寮監が9月で退職をされ、新しく池内寮監が就任されたこともトピックとして記載させていただきます。

今回初めて夜の開催となりましたが、今後も開催していきたいと思いますので、ご参加のほどお待ちしております。

◇今回の参加メンバー◇
松尾祐希（2017年入寮）
田中秀樹（2015年入寮）

＝お問い合わせ先＝
世話人　田中秀樹
080-9242-9192（携帯）
hide.970210@gmail.com

福岡の物産展

秋の大九州展
会期　11月1日(水)～11月7日(火)
10時～19時　最終日～18時
会場　髙島屋玉川店
本館6階催会場
4社出展予定
世田谷区玉川3-17-1
東急「二子玉川駅」西口2分
03-3709-3111

福岡フェア
会期　11月1日(水)～11月7日(火)
10時～20時　最終日～19時
会場　北千住マルイ食遊館
地下1階カレンダリウム
6社出展予定
足立区千住3-92
JR・東京メトロ「北千住駅」
西口3分
03-5244-0101

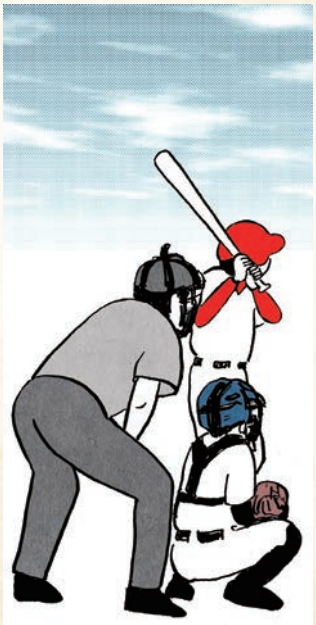
福岡フェア
会期　11月8日(水)～11月14日(火)
10時～20時半　最終日～19時
会場　国分寺マルイ食遊館
地下1階
6社出展予定
国分寺市南町3-20-3
JR「国分寺駅」南口3分
042-323-0101

福岡県うまいもの会
会期　11月9日(木)～11月15日(水)
10時～20時
15社出展予定
会場　京急百貨店　地階催事場
横浜市港南区上大岡西1-6-1
京急・横浜市営地下鉄
「上大岡駅」直結
045-848-1111

うまいもの菓子の祭典
会期　11月16日(木)～11月21日(火)
10時～19時
会場　東武百貨店　池袋店
8階催事場
3社出展予定
豊島区西池袋1-1-25
JR「池袋駅」直結
0570-086-102

福岡老舗名店の味
会期　11月16日(木)～11月22日(水)
10時～20時
会場　東急百貨店
二子玉川フードショー
地階催事場
9社出展予定
世田谷区玉川2-21-1
東急「二子玉川駅」直結
03-6805-7111

お茶にせんね



野球審判に魅せられて

宮崎（みやざき）　祐（ゆう）二（じ）

米大リーグ・ア・リーグレギュラーシーズンの全日程が終了し、大谷翔平選手（エンゼルス）がリーグトップの四十四本塁打でホームラン王のタイトルを獲得されました。投打の「二刀流」で史上初の「二桁勝利、四十四本塁打」の偉業を成し遂げ、日本人アジア人として初の快挙を、わがことのように喜んでおります。

私は、二〇〇二年六月に福岡から東京へ転勤して参りました。当時、小学生の次男が大田区の少年軟式野球チームに誘ってもらったのを契機に、保護者として少年野球のお手伝いを始めました。もともと私は、学生時代に剣道で心身ともに鍛錬いたしておりましたが、社会人になって素振りはゴルフクラブに変わり、福岡市西区生松台のおやじソフトボールクラブにも参加させていただきましたが、もっぱらプレイよりも飲み会を楽しんでおりました。そんな私ですが、保護者として少年野球の応援お手伝いをしているうちに、剣道で鍛えた応援の発声の大きさが子どもの所属するチームの監督兼ヘッドコーチに気に入っていただいたのか、チームのコーチに推され、ヘッドコーチまで担当するようになりました。

二〇〇五年からは大田区城南少年軟式野球連盟の審判のお手伝いをさせていただくようになり、今では、小学校低学年の審判から、小学校高学年、中学校そして大田区の一般成人の審判まで担当させていただいております。

最初はルールもうろ覚えで、ミスジャッジもありました。そのたびに審判部の反省会でご指摘を受け、失敗をいい経験として、ルールも徐々に覚えることができました。野球を観る視点も選手のプレイ、ベンチワークだけでなく、審判の動きやフォーメーション、と正確なジャッジの姿勢へと変わってきました。

野球のルールはいろいろなプレイの場面に対応し、洗練され、明文化されています。メジャーリーグのルールに則って、毎年少しずつ変わっています。プレイヤーの安全を優先したコリジョン（衝突・激突）ルール、時間短縮を考慮した申告敬遠、ピッチクロック（投手が打者に投球するまでに使える時間制限）、牽制球の制限等、ルールの改正も増えてきています。

またクロスプレーのジャッジをリプレー検証するチャレンジ制度、ストライクゾーンの審判の判断を助けるＡＩを利用した仕組みもあり、将来的には審判ジャッジにＡＩ活用が必須の時代が来ることも予想されます。

野球のルールはそれぞれの場面で適用される理由があります。正々堂々、フェアなプレイを基本としています。それに反するものはルール違反となりますが、今後ますます野球だけでなく、さまざまなスポーツにＩＴ、ＡＩ技術が活かされるでしょう。

そのような環境の中でも、プレイの演出を引き立てる審判のジャッジジェスチャーも野球の醍醐味です。地域の青少年健全育成とコミュニケーション拡大、審判スキルの向上を心掛け、理想のアマチュア審判を目指し、今後ともグラウンドで精進していきたいと思っています。

（カット　瀬知エリカ）

1959年　糸島市生まれ
1978年　福岡県立糸島高等学校卒業
1983年　鹿児島大学法文学部卒業
現　在　パナソニック㈱エレクトリックワークス社
　　会報『東京と福岡』編集委員

会員動向

◇入会者◇（十月十八日現在）

紹介者

安藤　史識（久留米市）インターネット
安藤真実子（福岡市）　山根　優姫
池松　慧（大牟田市）インターネット
石津　優磨（福津市）　筑豊地区実行委員会
稲永　幸雄（大野城市）大澤美保子
井原　俊哉（飯塚市）　平松　慎治
大貫恵理子（北九州市）インターネット
大野　貴史（田川郡）　福山　祐子
奥貫亜矢子（飯塚市）　嘉穂高校同窓会
小山　啓次（福岡市）　古川　洋
鹿毛　久史（田川郡）　筑豊地区実行委員会
梶原　美保（飯塚市）　嘉穂高校同窓会
金子　晋輔（福岡市）　福岡県東京事務所
椛島　能子（飯塚市）　伊藤　房憲
桑原美喜子（飯塚市）　中西　佳子
黒滝　サク（柳川市）　田中　健
小窪　克也（糸島市）　大澤美保子
小﨑　彩加（福岡市）　県人会事務局
坂本　貴洋（福岡市）　中野　亮
佐藤　安紘（飯塚市）　嘉穂高校同窓会
柴田　智彦（福岡市）　嘉穂高校同窓会
髙木真理子（田川市）　松尾Julie吉子
田代　英治（直方市）　福岡県庁人事課
田辺　匡仙（福岡市）　小倉　文子
藤　雄一（福岡市）　インターネット
仲　孝治（飯塚市）　田中　寛利
中嶋　美子（福岡市）　古藤　俊一
中野　公一（福岡市）　古川　洋
野田　祥一（飯塚市）　嘉穂高校同窓会
野見山憲二（嘉麻市）　筑豊地区実行委員会
袴田　美子（福岡市）　土井　健
橋本　美佐（八女市）　萱原　裕子
早田　正司（嘉麻市）　野見山憲二
萬代　逸郎（古賀市）　平松　慎治
早見　聡子（田川市）　筑豊地区実行委員会
菱田　幸子（飯塚市）　塚本　哲
福永　純一（東京都）　田中　健
本間　清隆（田川市）　筑豊地区実行委員会
松藤　浩二（直方市）　増田　和彦
丸山　靜香（東京都）　對馬富士子
宮崎　信子（福岡市）　袴田　美子
森田　琢也（飯塚市）　田中　寛利

大変多くの方にご入会いただきまして、とてもうれしく思っています。ご紹介いただいた皆さまもありがとうございました。

（事務局一同）

今月の表紙

市制51年目の新たなスタート「市民一人ひとりが輝く共働のまちづくり」

大野城市長
井本（いもと）　宗司（むねじ）

東京福岡県人会の皆様には、日頃から格別のご高配を賜りまして、厚くお礼申しあげます。

大野城市は、昨年、市制施行50周年という記念すべき節目の年を迎えました。

今年は、本市にとって市制施行100周年に向けた折り返しのスタートとなる大切な１年と捉えています。現在は、市政運営の羅針盤である「総合計画後期基本計画」や「シン・コミュニティ構想」の策定を進めており、大野城市の次の50年をデザインする作業に英知を集め取り組んでいるところです。

また今年は「大野城心のふるさと館」が開館５周年を迎えました。大野城心のふるさと館で開催する特別展は、大野城市の文化や歴史だけでなく、こどもから高齢者まで多くの方々が幅広いジャンルの展示に触れることができるよう毎回工夫を凝らしています。これからも先人たちが紡ぎあげてきた「ふるさと大野城」への想いを受け継ぎ、未来へ繋がるような魅力ある館づくりに取り組んでまいります。

さて、皆様は、本市の郷土料理である「鶏ぼっかけ」をご存知でしょうか。昔から大野城の家庭では、親睦の場のメや来客時のご馳走として、鶏の吸い物の汁をご飯にかけた「鶏ぼっかけ」を振る舞っていました。この「鶏ぼっかけ」は、令和５年に地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化として、文化庁の「100年フード」に認定されました。本市にお越しになられた際は、市推奨品「鶏ぼっかけ」をぜひお召し上がりください。

結びに、本市がこれまで市政運営の基軸としてきた「市民一人ひとりが輝く共働のまちづくり」は、これからの50年に向けたまちづくりにおいても、さらに磨きをかけ進めていかなければなりません。今後ともご支援・ご協力、ご鞭撻の程よろしくお願い申しあげます。

◆大野城市ふるさと納税では、もつ鍋、明太子、あまおうなど、様々なお礼の品をご用意しています。皆様のご厚意を心よりお待ちしております。

大野城心のふるさと館

鶏ぼっかけ

大野城市
ふるさと納税

◇インタビュー後記◇

日野真一郎さんの所属事務所にて、お話を伺いました。ご紹介いただいた、会員の重岡輝紀さんの前情報通り〝本当のいい男〟でした（眼福）。高身長・イケメン・賢い・楽器もできると文句なし。出会う人すべてをファンにしてしまう、そんな素敵な方でした。

小倉　文子

◇編集後記◇

九月になっても猛暑だと騒いでいたが、いきなり涼しくなって寒いくらい。過ごしやすい秋はなくなるのだろうか。

「郷土の先達」は、戦前の朝鮮半島と戦後の筑豊の炭鉱での生活から、性とエロスに真正面から向き合った詩人・森崎和江の生きざまを福山祐子副会長が執筆された。

「スポットライト」は、ピアノにサックスにバレエをも踊る歌手というよりマルチタレントな日野真一郎さんが登場。さらには整体セラピストを目指すというから驚くばかり。

「あのひとこのひと」には、シャンソン歌手の山根優姫さんと「プレメルケーキ」事業を支える中村亮介さんに自己紹介していただいた。

「お茶にせんね」は、理想のアマチュア野球審判を目指す宮﨑祐二さんにが寄稿された。頑張ってください。

與小田　健（編集副委員長）

「東京と福岡」の著作権は「東京福岡県人会」または「原著者」に帰属します。無断複写・転載を厳禁します。

「東京と福岡」についてのご意見は事務局まで。
E-mail:info@fukuoka-kenjinkai.jp

〈表紙題字　緒方竹虎筆〉